

#22 地理教育神奈川県唱歌

ちりきょういくかながわけんしょうか

#22 地理教育神奈川県唱歌

作歌：三山春次（みやま・はるじ 生没年不詳）

作曲：山田源一郎（やまだ・げんいちろう 1870-1927）

刊行：明治34年（1901）



※左より、表紙、歌詞、楽譜



♪ 解題

■ 内容

神奈川県内の名所、旧跡等、地理的要素を盛り込んだ、七五調の歌詞である。全45番より構成されており、1番と2番は「総説」として、神奈川県の開港を詠う。以降、「横濱市」（3番～5番）を出発地とし、「久良岐郡」（6番）、「三浦郡」（7番～13番）、「鎌倉郡」（14番～19番）、「高座郡」（20番～22番）、「中郡」（23番）、「足柄下郡」（24番～30番）、「足柄上郡」（31番～34番）、「津久井郡」（35番～36番）、「（再）高座郡」（37番）、「都筑郡」（38番～39番）、「橋樹郡」（40番～45番）の順に、県内各所を巡って、再び横浜に戻る構成である。

『神奈川県史 資料編14 近代・現代（4）』には、「その歌詞を読んでゆくと、まさに唱歌による県内めぐりである。三十四年当時の郡市名や町名もすべて織りこまれている。」とある。

『神奈川県史 資料編14 近代・現代（4）』には、「その歌詞を読んでゆくと、まさに唱歌による県内めぐりである。三十四年当時の郡市名や町名もすべて織りこまれている。」とある。

『神奈川県史談 第5号』所収の「地理教育 神奈川県唱歌について」において、表紙の写真は「鎌倉八幡宮と横浜市街写真の二図」と書かれている。

本書は、国立国会図書館サーチによると公共図書館での所蔵は当館のほか、国立国会図書館、川崎市立中原図書館に所蔵が確認できる。また、国立国会図書館デジタルコレクションにおいてインターネット上にも公開され、閲覧することができる。

■ 作者

三山春次は、国立国会図書館サーチによると本書のほか、『国語作文』、『女子文かくしるべ』の著作を確認できるが、生没年等は不詳。

山田源一郎については、人物コラム 5 (p. 31) を参照。

■ 明治期郷土唱歌

山口幸男の論考によると、府県制、市制・町村制の公布により、近代の地方行政制度が確立された後、明治 33～34 年、全国各地で都道府県郷土唱歌が誕生したとされる。本書も明治 34 年の刊行である。

郷土唱歌が全国で誕生した背景の一つには、「歌による知識の取得」をねらいとした」とあり、「歌いながらに、各地の地理、歴史、自然、伝説、名産などが覚えられること」を、郷土唱歌の特長として挙げている。

♪ 参考文献

- ・『神奈川史談 第 5 号』神奈川県立図書館 1962 [K097/2/5]
- ・『神奈川県史 資料編 14 近代・現代(4)』神奈川県 1976 [213.7/10/14a]
- ・『音楽教育への挑戦』日本音楽学校 2003 [760.7/120]
- ・山口幸男「百年前の郷土との出会い：明治期郷土唱歌の地理教育的・総合学習的考察」（『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』第 52 巻 群馬大学教育学部 2003）[Z051.3/111-2]